

令和7年度第3回伊賀市地域公共交通計画検討分科会 議事録

■開催日時 令和8年3月4日（水）午後1時30分～午後4時10分

■開催場所 伊賀市役所 5階 501会議室

■出席者（敬称略）

【委員】

辻本 勝久（和歌山大学）

川北 幸宏（三重交通株）

前田 敦志（三重県タクシー協会）

山本 いずみ（公募委員）

成底 正好（公募委員）

森 慶之（中部運輸局三重運輸支局）※オンライン

中矢 裕丈（伊賀市地域力創造部長）※途中からの出席

【事務局】

地域力創造部 佃次長

公共交通課 森地課長、中島主幹、中川係長、西條

■欠席者（敬称略）

【委員】市川 覚（伊賀鉄道株）

■傍聴人：0人

■会議概要

1. 開会

公共交通課 森地課長

2. 協議事項

（1）基本理念と基本方針について

（2）計画の目標と目標を達成するための実施事業について

事務局から資料1に基づき説明。

【質疑応答】

会長	まず、協議事項の一つ目、基本理念と基本方針を先に固めていきたいと思います。資料の26ページについて、ご意見等ありますか。
----	--

委員（市民公募）	資料の44ページを見ながらの方がわかりやすいと思うので、目標を達成するための実施事業で、施策2番、6番、7番に関連するものをお話しいたします。
事務局	大きな基本理念をまず固めていこうという会長のお話しでしたので、施策等々は、また順番にお伺いさせていただければと思うのですが。
委員（市民公募）	関連してくると思ったので。たぶん全体像を深めた中で、最終的に理念が固まるかなと思ったので、発言させてもらったのですが。いいでしょうか。 44ページの具体的な施策から、フィードバックしていきたいのですが、提案が大きく3つあります。一つ目は、施策2の「バス路線の維持・改善」で、あと6「地域の実情に応じた交通手段の検討」の部分に、車両の小型化、AI技術の効率化と品質維持という文言を追記していただきたい。そうすると、最終的に短期、中期、長期的な展望が見えると思いました。
会長	委員が今からご発言になる内容は、やはり施策のことになりますか。
委員（市民公募）	そうです。
会長	でしたら、やはり理念と方針を固めてから、施策をしっかりと議論しましょうか。
委員（市民公募）	わかりました。

会長	用語の話になってしまいますが、24ページの基本方針①に出てくる「基幹公共交通」とは何のことでしょうか。ここにしか出てこないのです。
事務局	鉄道などの、骨格になるような公共交通、という理解ですが、確かに市民の方が見たときにわかりにくいかもしれません。公共交通軸のイメージです。
会長	34ページにある語句ですね。そうであれば、用語を合わせた方がよいですね。

会長	基本理念について、何かご意見ありますか。
事務局	細かい修正ですが、副の題部分「みんなで支え」の後に「る」を追加して、語尾を合わせたいと思います。

会長	特にご意見がないようであれば、それでよろしいですか。
----	----------------------------

【了承】

会長	次に基本方針は、いかがでしょうか。 今回は重点方針が②ということで、何を大事にしたいのかをはっきり書いていただいているということですね。 前回、たくさんいただいたご意見、「利便性が大事」など、そういったことも反映されていますでしょうか。
委員（市民公募）	交通難民関連も、「みんなで支える」という部分に含まれていると理解しています。
会長	「すべての人の生活の質を上げにかかる」という、かなり積極的なイメージの案ですね。 基本方針については、これでよろしいでしょうか。

【了承】

会長	では今からは目標と、目標を達成する実施事業についての協議を行いたいと思いますが、その前に、25ページから41ページまでも、いろいろ資料がありますので、この部分について、何かお気づきの点はありますか。
委員（市民公募）	26ページに、私が住んでいる西之澤がありますが、水色のエリアの中に入っていません。緑の線は、三重交通のバスをイメージしているのか、という質問なのですが。
事務局	緑の線は、バスとは限りません。連携軸というものを、路線バスやコミュニティバスといった、いろいろな交通手段で確保をする、ということを概念的に示したイメージとなります。

会長	26ページの、上野市駅から青山町駅に延びている地域内連携軸という緑の線は、必要でしょうか。32ページには出てきませんが、27ページには記載がありません。
事務局	伊賀鉄道が、地域内連携軸の役割を果たす、という表現の図ですが、見えなくなってしまうので、伊賀鉄道の線に重ならないように、ずらして記載している状態です。緑の線はあくまでも概念、イメージですので、何か特定の路線等を示しているわけではありません。地域拠点と中心市街地を結んでいるということを、表現したかったのですが。
委員（市民公	ネットワークをつくっていく、というイメージ図ですね。

募)	
事務局	そうです。ネットワークをつくっていくイメージ図であり、路線図ではありません。
会長	34ページを見ると、地域内連携軸がイコール準基幹バスということになっていて、そのあたりが不整合かと思います。
委員（市民公募）	ポンチ絵のようなイメージならよいかもかもしれませんが、もっと具体的に、となると、44ページ以降のものが落とし込まれてないと整合性がとれないのだと思います。 34ページの部分は、国の補助金を活用した上での全体像をイメージした中で議論してよいのですよね。
会長	そうですね。

委員（市民公募）	今まで、利用者目線で発言している思いを、基本理念にも取り入れてくれているし、図や表で分かりやすく記載してくれていると思います。 26ページの図のこの部分は、いがまちのここで説明していますよ、この部分は27ページに拡大して載っていますよ、ということがわかるようにすれば、わかりやすいと思いました。 26ページだけでは、詳しくはわからないから、周辺部を拡大することで、見捨てていない、ということもイメージできて、各支所の周辺の説明だということがわかります。一般の地図で、ここではわからないけど、この部分はここを見ればわかる、という表示方法があります。一工夫してもらえれば、これが活かされて、納得しやすいと思います。
会長	26ページが目次のような感じですね。詳しい内容は、このページを見なさい、ということがわかるように、ということですね。

事務局	青山は、伊賀鉄道でつながっていることがわかるので、34ページの準基幹バスとの整合性をとるために、緑線を消そうと思います。 またイメージ図の円の大きさなどは、今後さらに微調整しようと考えています。例えば阿山地域だと、甲賀市への需要もあると考えますので、少し円をはみ出して表現できたらと考えています。
会長	阿山地域で気づいたのですが、30ページには緑色の線の凡例がありません。

事務局	修正指示済です。
-----	----------

委員（国）	26ページの将来イメージというのは、今後10年後に目指すかたちという理解でよいでしょうか。現状、こういう課題があって、こう解決していくと、こういうかたちになりますよ、ということ、市民の方に知ってもらうのに、今がこうで、この取り組みによって、この将来イメージになるというのが、あるとわかりやすいかと思いました。
事務局	26ページは、ご指摘のとおり10年後の将来イメージです。こういう交通体系になっていることを目指す図として掲載しています。
事務局	役割を色で区別して記載しており、10年後の伊賀市の交通体系、この地域はこういった役割の交通が、エリアをカバーしている、といった役割分担を描いた将来図として掲載しています。特に水色の地域生活交通については、具体的な路線ではなく、当該エリアは、地域生活交通に分類される役割の交通がカバーする、ということ、わかりやすく表すことを目的としています。
委員（国）	現状の課題がある状態の図は特に掲載せず、文字や数字で理解してもらうということですね。
事務局	資料編にはいろいろ掲載していますが、本計画は、将来イメージから始める構成としています。
委員（国）	わかりました。 あと26ページと27ページ以降で、全体像と、各地域のイメージを記載していると思うのですが、線の太さが、26ページだと大動脈である基幹軸を太めに、地域内交通は細くしてありますが、27ページ以降は、それほど線の太さに差がないように思います。何か意図したものですか。
事務局	27ページ以降の図について、線の強弱をつけるよう修正します。

会長	41ページの見直し手順は、修正すべき点が多くある気がしています。細かい点で言うと「既存路線バス」なのか「既存バス路線」なのか。あと、そもそも見直し手順の分け方が、「基幹バス」「準基幹バス」「地域生活交通・その他」という分類でよいのか。民間で行うのか、行政の役割を少し出すのか、また全面的に行政が担うのか、又は地域が主体的に行
----	--

	<p>うのか、といった、どういうスキームで運行するのか、という面から考えた方がよいのではないかと。そうすると、この図をすべて修正しなければいけなくなってしまうのですが。また「地域独自の交通システム」という表現があったり、「地域による自主的な交通システム」という表現があったり、よくみるといろいろ表現がずれているので、かなり修正しないとイケない気がします。</p> <p>あと、掲載の場所も、46ページのバス路線の維持改善の施策のあとに位置すべきだと思います。</p>
--	---

委員（三重交通）	<p>41ページの手順についてですが、民間バス会社の立場として、どこまでやっていけるのか、という問題があり、そのあと、行政としてどのようなフォローアップ、もしくは施策をするのか、という問題になってくると思います。この分類別で考えていくのであれば、わたしたち企業はどこまでやっていくのか、ということもありますし、また国や県、市の補助金も関係してきますので、先ほど会長からあったように、民間がどこの部分を担う、とか、市町としてどうするか、という視点がないと、当社としても、どうしてよいかわからなくなってしまいます。情報共有しながら、共同で進めていかないと、どうしても空白が出てきてしまうと思う。</p>
会長	<p>やはりこの41ページの図は、修正した方がよい気がしますね。</p>

会長	<p>少し話をまとめますと、41ページは、かなり手直しが必要であるとして、40ページまでの部分で、あとお気づきの点はありませんか。</p> <p>特にないようであれば、協議事項の1に関わる場所は、このあたりとさせていただきます。</p> <p>次に、協議事項2の、計画の目標とそのための実施事業について、ご意見ご質問等いかがでしょうか。</p>
----	--

委員（市民公募）	<p>大きく3つあります。まず一つは車両の小型化、ダウンサイズとAI技術の導入による効率化と品質維持を、きちんと具体的に明記することが必要だと思います。提案内容としては、利用実績に応じて車両の小型化を図りながら、AIオンデマンド交通システムを構築することによって、最適な配車、人数</p>
----------	--

	や時間など、こういったものが見えてくると思います。
会長	それは何ページのことになりますか。
委員（市民公募）	<p>全部にまたがっていることなのですが、44ページの施策2と6に関する部分だと思いますが、20の新たなモビリティサービスの積極導入にもつながってくるのだと思います。</p> <p>それをやることで、利用者が必要と思われる時間帯や人数を計画的に把握できるのではないか。ダイヤや路線の情報を発信しても、一般の方にとってはその情報を読み解くことが難しい。どこかでAIを導入することは必要であると思います。</p> <p>次に二つ目ですが、住民参加型ライドシェアにおける安全の確保。ライドシェアを導入する際に、伊賀市として、研修制度を含めた管理体制が構築できるのか、またしていこうとしているのか。そこは民間に丸投げするのではなく、市が音頭をとりながら進めていくのかを確認したい。逆に言えば提案をしていきたい。</p> <p>三つ目には、既存資源のフル活用による効率的な連携。計画では、企業や団体等が事業主体とあるが、なかなかそれが具体的に読み取れないので、たとえば、伊賀市において、工業団地の従業員の送迎バスがあるのか、ないのか。あるのであれば、それを活用することができるのか。そういったものを含めて、この事業のなかで、落とし込んでおいた方がよいのではないか。</p> <p>これらをやることによって、また最終的な、施策番号20の新たなモビリティサービスの導入に結びついていくと思います。</p> <p>せっかくいくつかの地区で、モデル的に事業をされるので、事業予算が終わったら終わり、ではなくて、スタートラインからそれを意識した計画をつくっていただいた方が、5年を待たずして3年後に、てこ入れすることを描かないと、いつまで経っても改善しないのではないか。</p>
事務局	<p>今ご提案いただいた3点については、50ページの施策6、地域の実情に応じた交通手段の検討、これは重点施策として位置付けているものですが、ここに含まれることだと考えます。「AI」や「オンデマンド」「車両の小型化」については、まさに「しまタク」の事業で、家の前まで行けるよう、現状のハイエースから軽自動車に車両を小型化した事例で、①の再構築に該当する内容です。ここで「デマンド運行など」の「など」に「AI」や「小型化する」ことが含まれてい</p>

	るので、文言として、記載するかどうか、という問題になります。
委員（市民公募）	前回の会議でも、アナログ方式の内容だと思いました。そこはしっかり文字として記載した方が、意識付けできるし、よいと思う。せっかく情報収集できる事業なのに、取りこぼしてしまうともったいない。
事務局	AIデマンドのメリットとして、マッチングの便利さもあるが、データを収集して、次に活かせるという点を、重く考えていただいているということですね
委員（市民公募）	あと、最終的にはドアツードアです。乗りたい人が、用事をしたい場所から、行きたいところへ、無駄なく行けるような交通手段構築のために必要不可欠であると思う。
事務局	<p>島ヶ原など人口が少ないエリアだと、AIを導入して最適化ルートを算出するメリットが少ないと考えます。費用対効果から見ても厳しいです。利用者層から考えても、アナログの電話での受付が最適ではないか、という地域の方々との協議で出した結論です。</p> <p>しかし、今後他の地域で考えた場合は、AIが適している場合もあると思います。事例研究は、継続して進めていきたいと考えていますので、50ページに記載する方向で修正します。</p>
会長	委員の提案としては、50ページの施策6のなかに、今おっしゃった具体的なキーワードを入れた方がよいということですね。例えば「AIを活用したデマンド運行など」とか、そのような感じでしょうか。キーワードは「AI」と「車両の小型化」と、他は何でしたでしょうか。
委員（市民公募）	<p>住民参加型ライドシェアにおける安全の確保で、伊賀市の立ち位置。伊賀市が見えないのです。民間に丸投げするのかが見えない。安全管理、運行管理をどのように行っていくのか、ということをしっかり明記いただきたい。研修制度を設けていくのか、タクシー会社やバス会社に、一定期間委託しながらサポートしていくのか、具体的なものが見えない。</p> <p>あとは、既存の事業所とタイアップができるかどうか。実施事業主体に「○」は記載されているが、それが具体的に見えない。具体的に見えないと、担当者が変わるとわからなくなってしまう。それがしっかりと、目標の中に位置づけられたらいいと思います。</p>
事務局	公共ライドシェアは現状実施しているものです。島ヶ原につ

	いても、研修を受講してもらって進めています。市として伴走支援をきちんとしながら、安全面についても確保したいと考えていますので、50ページ事業②の部分に文言を追記します。
委員（市民公募）	ここに書くべきか、目標に書くべきか。伊賀市全体で考えるのなら、目標の設定のところに、なにがしかの位置づけがないと、単体の事業で終わってしまう。
会長	それは施策7の仕組みづくりになると思います。
委員（市民公募）	具体性がないので、具体的に書いていただきたい。
会長	施策6と7を、もう少し具体的に記載することで、力を入れている、ということがよりわかるかもしれないですね。重点施策ということ。
事務局	企業のバスについては、施策6の③に包含されている内容ですので、ここに追記します。
委員（市民公募）	情報収集と、活用資源が見える化して、きちんと活用していきましょう、ということが見えれば、もっと便利になることが、イメージできやすいと思う。

委員（市民公募）	41ページの、こういう書き方の前に、短期、中期、長期の、どれとどれが絡んでいくのか、横軸の書き方でイメージさせた方が、より分かりやすいと思います。
----------	---

委員（国）	<p>10年とスケジュールが長い計画なので、具体的に何をやっていくのかということ、市民の方に見せていくために、短期でやっていくもの、中期でやっていくもの、長期でやっていくもの、ということ、書けるものは具体的に書いていただいたらよろしいかと思います。なかなか他の自治体でも、計画に具体的に書けているところは少ないですが。まだ時間がありますから、課題もしっかり整理いただいているので、決まっているものがあれば、具体的に書きこんでいただけたらと思いました。</p> <p>それから41ページのマトリックス、見ていると難しいと思いました。どこまで理解できるか。またこのなかに収支率が出てきますが、新しい計画の目標に収支率がないので、やはりある程度、効率化の検証をするにあたって収支率は、方針のどこかに、施策の目標としてあったほうがよいと思います。</p>
-------	---

委員（市民公募）	横軸で、短期、中期、長期で整理整頓ができて、イメージができたなら。
会長	各施策にスケジュールとして、短期、概ね3年、中期、概ね5年、長期、10年以上、ということで、なんとか具体的に書こうとはされていますが。
委員（市民公募）	個別で書いても、今の時点では意味がないと思う。全体像ができていないので、全体像の中で書いて、個別のことは、3年ごとに検証、フィードバックしながら修正するという、スケジュール感があつたほうがいいかなと。 見直しありきではなくて、交通の不便を解消するための構想を横軸で書いたものに、まず大きなスケジュールを落とし込まないと。個別のものが決まてこない。現状のかたちだと、むしろスケジュールの記載はいらぬのではないか。もっと具体的に、短期的なものはここまでやって、検証するかを書かないと。
事務局	例えば、阿波線や玉滝線は、タイムリミットが決まっているので、そこに向けて、本当に短期のスケジュールで、なにがしかの成果を出さないといけない案件です。それは施策6に入ってくる話なので、そういった案件についての記載をどうするか、ということでしょうか。
事務局	ただ、玉滝線や阿波線は、交通計画とはまた別の計画があります。交通計画は方向性を示すものだと考えます。細かな事業については、別に具体的な計画があり、そこでスケジュールも決まっています。交通計画にどこまで記載するかという問題になってくると思いますが、他市の事例等を見ても、そこまで詳細に記載はしていません。
委員（市民公募）	最初のマップのイメージと、統一をはかったらどうでしょうか。そのイメージと、具体的な路線バスの見直し手順がどのように絡むのか、地域のコミュニティの仕組みとどのように絡むのか、ということを訴えたいわけですね。41ページでは。
事務局	41ページは、既存の、現在走っているバスをどうしていこうか、という手順になります。
委員（市民公募）	それをやるためには、将来のイメージ図が基本にないと、いけないんじゃないですか。廃止ありきではなくて。どのように交通難民をなくすか、という大前提のもとにつくっていくはずなので。その絡みが、計画のなかに落とし込まれてい

	ないと。これはこれ、あれはあれ、だと、迷いませんか。個別に考えないといけなくなる。
事務局	41ページは、バスだけに特化した手順なので、鉄道のことが含まれていませんし、本当に現状のバスについて、基準を決めて、基準に満たなければ見直していこう、ということを決めたものです。例えば、伊賀市が三重交通さんへ委託している西山・島ヶ原線などの廃止代替バスは、毎年、乗車人数や収支率、ひとり当たりの市負担額を数値化して、ある程度その評価基準を満たしていれば、現状続けていきましょう。しかし基準を満たしていない、となった場合は、地域で組織をつくって考えていきましょう、と。
委員（市民公募）	その考えが違うのかなど。充実させるために施策はあると思う。バス路線で、費用対効果がないから、地域に落とし込むのではなくて、短期的にはそれでよいのかもしれないが、中期的、長期的には、総合的な目標設定をきちんとしていかないといけないと思う。総合基本計画の上位計画等の連動を、ここでどのような交通体系に落とし込むのかということが、もっと問われるのではないかな。
会長	要するに、10年後にはこんな姿になってほしいということが見えない、ということですね。5年後には、こんな姿になっていけばよいね、ということが見えればいい。
事務局	この見直し手順については、そういう視点でつくられたものではない、ということはあるんですが。
会長	見直し基準はそうですね。この見直し基準も、道具として使いながら、10年後には、どんなバスの体系でありたいのか、とか、そういうイメージが浮かんでくればいいんでしょうね。
委員（市民公募）	伊賀市だけの問題ではなくて、伊賀市へ誘客させることも入っているじゃないですか。人口動態をきちんと把握したうえで、この計画にどのように落とし込むか、ということに、重点を置かないと、個別の案件にとらわれてしまうと思う。だからこそ、具体的なものは挙げておいた方がいいと思う。個別の事業のスケジュールではなくて。
会長	各事業の実施スケジュールであれば、この程度の書きようしかないと思いますが。
事務局	10年後のイメージは26ページです。それに向けての、各事業ではない、スケジュール感とは、どのようなものでしょうか。

(中矢副会長 出席)

事務局	委員のお考えのイメージが、どのようなものなのか、あまりわかっていない状態なので、図か何かで示していただくことはできませんか。
会長	42ページと43ページの目標に、数字ではありますが、何を指すかということが、書かれています。10年後には、何をここまでする、という。ただ委員からご指摘のあった、収支率のデータの記載はないので、そのあたりは修正すべきだとは思いますが、現在はこうで、10年後にはこうする、ということがここで書かれていますので、それを図にしようと思ったら大変だと思います。そのために、どういう事業をするのか、いつ何をするのか、が45ページから書かれています。いつ、どういう事業を3年後、5年後10年後に何をするのかということを書こうと思ったら、今回の書き方プラスアルファくらいしか書けないと思います。49ページのように、3年間で検討・調整をして、そのあと状況を見ながらするか、51ページのように、どの事業も継続的にずっとやっていきます、とか、くらいしか書けないのかなと。
委員（市民公募）	一度ポンチ絵を描いて、その描いたものから、落とし込んでいった方がわかりやすいと思います。
会長	理想像みたいなものですね。
委員（市民公募）	どうあるべきかという姿を描くときに、全体像がないといけないと思う。
委員（市）	前もって事務局で、この計画案をお示しする前に協議したのですが、3つの基本方針を立てている中で、一つ目の基本方針の目標、何を指すのか、という点では、利用者を増やすことをイメージしている。二つ目はみんなの満足度をメインに考えていて、三つめは便利さという点を指標で表せたらと。中でも特に便利さをどう表現するのかが難しいと感じています。総合計画で交通施策部分を確認したのですが、そこでは、交通をもう一度デザインしなおすという点がメインで、あとはそれぞれバスと鉄道網と、伊賀鉄道をどうしていくのか、という四つに対して指標を設定しています。それぞれの目標としては、交通デザインに対してはICカードの利用の普及率、バスは利用者、鉄道はJRや近鉄の利用者数、伊賀鉄道も同じく利用者数です。全体をつなげる、交通の大きな目標を立てるときの柱が何か、という点を示しづらいことが課題だと感じました。今後もパブコメなどもあり、いろいろなご

	意見をもらって考えていけたら、事務局と相談してました。計画全体の目指す姿を、大きな絵で示せたらそれが一番いいとは思いますが、なかなか難しいと感じています。
委員（市民公募）	上位計画で描いているのは、人口を流入させないといけない、内部を活性化させないといけない、ということだと思う。それがあってのこの計画でないと、連動していかないと思うし、なくなることを前提としながらつくるのかと思うと、マイナス思考になってしまう。もっと充実させるために、今後5年後にはこういうことをやっていこう、10年後にはこういう仕組みが一番ベストであろう、ということをやったり描いていた方がいい。
会長	現状の課題から10年後を描こうと思えばなかなか難しいですが、10年後こうあったらいいな、という姿は描けるのかもしれない。
事務局	それが26ページだと思っているのですが。
委員（市民公募）	それではない。
会長	そのネットワークの中で、人々がどのように生活しているのかが見えるとよいのではないかな。
委員（市民公募）	その地図で落とし込もうとすると、余計にややこしくなると思う。最初のイメージ図、交通難民をつくらないという大前提があるとするならば、どのような交通形態が必要とされるのか、が大前提にあって、だからこそ、この課題を解決するために短期的に、中期的に、長期的に、ということを描けるように。
事務局	それは、事業で記載していると考えますが。
会長	10年後のおじいちゃん、おばあちゃんは、どんな生活をしていたいよね、とか、高校生がこう生活していたらいいね、とか、そんなことが見えるような何かがあって、その実現のためにはどうすればいいのかがわかるといいのかな。それを一言でまとめたら、すべての人が幸せに暮らしている伊賀市、ということになるんでしょうけど。
委員（市民公募）	基本方針2が一番重要だと思っていて、そこがしっかり描かれていないと、3にもいかないし。地域住民の立場からみた交通体系、交通関係からみた交通体系、いろいろな角度があるわけですね。電車もそこにあるし、そういったものをある程度全て可視化できるようなイメージが最初がないといけない。文字をたくさん書いても、これはどこに向かっている

	のかが見えづらい。施策にも落とし込みにくいと思う。
会長	本協議会までの三週間で、そういう絵が描けるのかという問題もありますが。
委員（市）	他の地域でも交通計画は策定されているので、委員が描くイメージが、こういうイメージである、というものを提示いただけたらと思います。それぞれの考えがずれてしまうと、また違うものになってしまうと思う。
事務局	滋賀県の交通計画にあるようなポンチ絵のイメージですか。
委員（市民公募）	それとも違う。横列にそれぞれの、例えば基幹バス、公共交通軸、準基幹バス、地域生活交通が分かれています。それがどのように絡み合うのか。ここまでやるのであれば、横列に、年度ごとに、ある程度の構想があったらわかりやすいかなと。そうすることによって、交通機関がいついつまでに、こういう体制をつくっておかないといけないとか、民間の、地域主体となる人たちはいつまでに自分たちがどのような立ち位置にいるとか、こうしたほうが良いという、全体が見えると思うから。公共交通で言えば、いろいろな項目があるじゃないですか。縦軸に、いろんな項目があって、それを計画ごとに、横軸に、グラフ、ありますよね。それが、いつまでに何ができる、という見方があるじゃないですか。あれを漠然とイメージしてもらえれば。 いかなる場合も、想定内にしないといけないと思う。想定外のことが起こったり、現状維持であったりすると、改善がない。だから、ここまでできているわけなので、課題があるからこれがつくれるわけじゃないですか。
事務局	66ページのPDCAサイクルのイメージですが、これですか。
委員（市民公募）	見やすくしてもらいたいのです。
事務局	概要版に記載している将来イメージは、10年後、こういう姿を目指すために、こういう施策をします、ということを表しています。裏面には、計画策定の背景や実施した調査内容、課題を記載します。このイメージでもないのでしょうか。
委員（市民公募）	そうなんです。僕もちょっと考えてみます。
会長	そうですね。一回持ち帰っていただいて。いつまでであれば修正は可能ですか。
委員（国）	このようなイメージですか。（津市交通計画を画面にて共有）

会長	これだと伊賀市のスケジュールと同じですね。
事務局	個別の事業のスケジュール感ではないのですよね。全体像が つくりあがっていく過程が見えるようなものでしょうか。
事務局	10年先の目指す姿は、概要版で表現していると考えます。いつ までに、これをどうするのか、は、各事業の施策でスケジ ュール感を考えていますので。
委員（市民公 募）	今ちょっとAIに聞いています。
会長	そうですね。ちょっと持ち帰っていただいて、また具体的に ご意見を頂けたら。いつまでなら、修正可能ですか。
事務局	今日が水曜日で、今週中であれば、なんとかいけるかもしれ ません。が、その図は必ず必要なのでしょうか。
委員（市民公 募）	市民側から見た立場で言えば、自分たちの地域を、足元から 見るために、見るわけじゃないですか。この計画を。それぞ れの地域の中で見られる、ということがまず一つと、既存の 公共交通が、将来的に確保できるのかという不安を抱えてい るはずなので、それがどうなるんだろうと思っている。それ は事業者もそうだし、地域の人たちもそう。その全体像が見 えるのが、総合基本計画の中であって、その上位計画との整 合性がないといけないと思う。それがポンチ絵であったり、 全体のスケジュール感の中で、どのように絡み合っていく か、ということで必要だと思えます。
会長	では、そのポンチ絵は、計画ができた後の、説明のための広 報資料に載せましょうか。今から作成することはできないと 思うので。
事務局	計画を策定した後は、市民の方にわかりやすいよう、動画 や、計画をわかりやすくまとめたものを作成する予定があり ます。
会長	その方が、計画に記載するより、市民の方に伝わりやすいか もしれません。

委員（三重交 通）	先ほの既存バス路線の、41ページの手順については、46ペー ジの後ろに入れるんですね。
事務局	はい。内容ももう少し見直します。

(3) 伊賀市地域公共交通計画の概要版について  
事務局から資料2に基づき説明。

【質疑応答】

特になし。

(4) 今後のスケジュールについて  
事務局から資料3に基づき説明。

【質疑応答】

特になし。

3. その他

特になし

(終 了)